

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	溝上慎一 (みぞかみしんいち)	所属	京都大学高等教育研究開発推進センター
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 自己意識研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数(会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください) 会員 のべ31名(うち認定心理士 2名) 非会員 のべ81名(うち認定心理士 不明) *一般の方にも公開していますので、非会員の認定心理士は把握できていません。</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>■実施内容 助成期間に以下4回の催しを行った。 第57回 2011年5月29日 中谷 陽輔(同志社大学大学院文学研究科) 「アイデンティティ研究の基礎理論と臨床実践のはざままで」 第58回 2011年8月15日 杉浦 元亮(東北大学加齢医学研究所) 「自己3層モデル-脳画像研究からの提案-」 第59回 2011年11月6日 有光 興記(駒澤大学文学部) 「自己意識的感情研究の射程」 第60回 2012年2月21-22日 出版記念「自己論」連続セミナー 溝上慎一、中間玲子、佐藤徳、金川智恵、梶田叡一、堀内孝、杉村和美、 家島明彦、森岡正芳、小松孝至、内田由紀子、杉浦健、計12名の講師</p> <p>■成果 自己に関する最先端の取り組みを行っている研究者を招聘し、報告をもとに質疑等議論を重ねられたのは、大きな成果である。中谷氏は北米の代表的アイデンティティ尺度を網羅的に翻訳・調査実施し、杉浦氏は脳イメージング研究の成果をレビューして自己3層モデルを提唱された。有光氏は、近年話題になっている自己意識的感情のレビュー、実験成果を報告された。いずれも参加者にとって新しい知識であり、活発に意見交換・交流がなされた。また、研究会のメンバーを中心として『自己の心理学を学ぶ人のために』(世界思想社)を刊行し、執筆者を講師とする連続セミナーを開催した。知見を広く社会に提供した。</p> <p>■将来計画 ・本研究会の参加者の多くは人格や臨床、青年期以降の発達領域に関心を寄せる者であるから、今後とも引き続き、他の心理学領域に於ける自己研究(認知や社会心理学、脳・神経基盤など)の最新の成果を学びながら、参加者の取り組む研究課題を進展させていきたいと考えている。 ・H24年度は、外部講師だけでなく、会員や大学院生の発表も少し交えていく。</p>		